

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 晃宝 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語83人

② 算数83人

5 留意事項

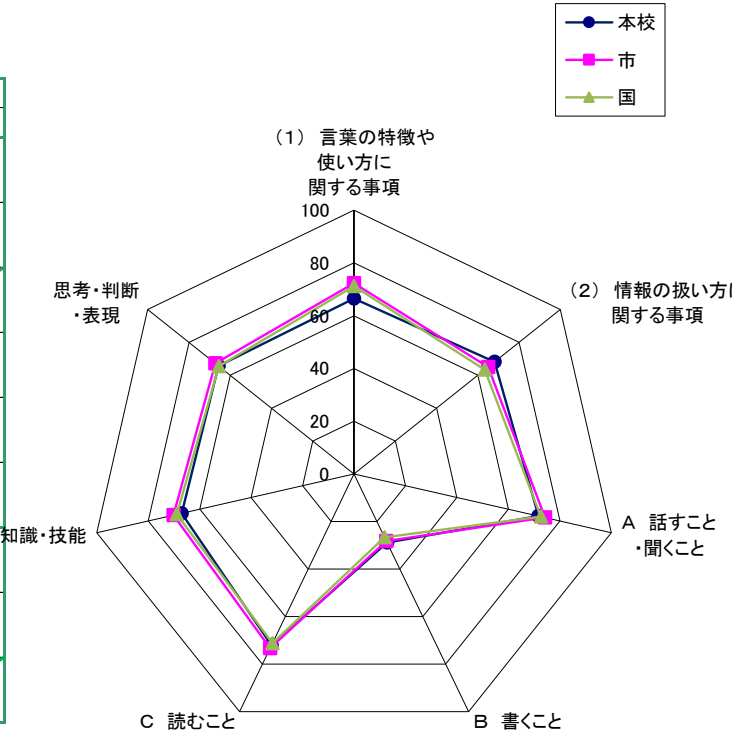
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晃宝小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	66.5	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	68.1	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	71.7	74.2	72.6
	B 書くこと	28.8	28.2	26.7
	C 読むこと	72.1	73.3	71.2
観点	知識・技能	67.0	70.2	68.9
	思考・判断・表現	65.7	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

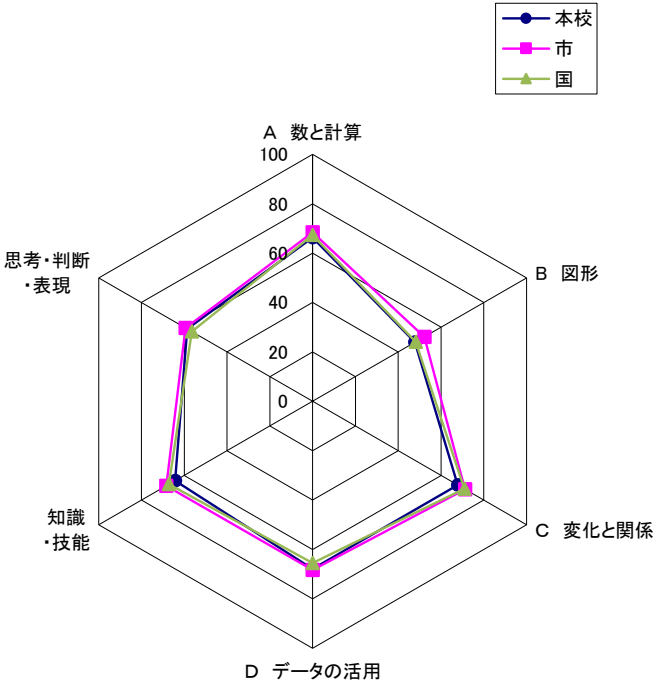
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使いに関する事項	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ○文章の種類とその特徴について理解する問題では、正答率が80%に近く、身に付いている。 ●漢字を文の中で正しく使う問題では、正答率が全国より低く、課題が見られる。 ●日常よく使われている敬語を理解する問題では、正答率が50%以下となり、課題が見られる。	○漢字を身に付けるには、反復練習が大切である。授業→宿題→テスト→練習など、一人一人にあった練習サイクルを確立させることで定着を図りたい。また、普段のノートや日記、漢字練習などで意識的に漢字を使う経験が必要である。 ●敬語については、学校生活の中で場に応じた適切な言葉遣いで話すことを根気強く指導していきたい。
(2) 情報の扱いに 関する事項	平均正答率は、市・全国の平均を上回った。 ○原因と結果など情報と情報との関係について理解する問題では、全国の前年正答率を6.6ポイント上回った。 ○情報と情報との関連づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する問題では、全国の前年正答率を3.0ポイント上回った。	●文章の中から物事を捉える際には、その文章を正しく理解することが大切である。そのため、音読を通して内容を理解したり、原因や結果、事実と考えを区別しながら読み取ったりする指導を進めていきたい。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題では、全国の前年正答率を4.8ポイント上回った。 ●必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える設問では、全国の前年正答率を下回った。	●今後もペアやグループでの話し合い活動を多く取り入れていく。その際に、自分の考えを明確にしたり、相手の考えと比べたりするために、話し合いメモを活用していく。 ●話し合いの目的や相手意識を大切にしたり、必要なことを質問したりすることで話し合い活動が効果的に行われるよう指導していきたい。
B 書くこと	平均正答率は、市・全国の平均を上回った。 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することを問う設問では、全国の前年正答率を2.1ポイント上回った。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することを問う設問では、正答率が30%となり課題が見られる。	●意見文を書く際には、基本となる「頭括型」、「尾括型」、「双括型」があり、その特徴やよさにはどのようなことがあるのかを再度復習する。その上で、自分の意見を伝えるためにどの方法を選ぶのかを考え、選択させて、文章を書く練習をすることで、書く力を伸ばしていきたい。 ●意見文だけでなく、普段の振り返りやまとめの中でも文章を書く場を多様に設定する。
C 読むこと	平均正答率は、市・全国の平均と同程度だった。 ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、正答率が90%を上回っており、よく身に付いている。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる設問では、正答率が60%未満となり、課題が見られた。	●文章の構成や要点を捉えるためには、主体的に文を読む力を身に付ける必要がある。今後も、自分の知識や経験などと関連付けながら読ませたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえながら文章を読ませたりといった指導を心掛けていきたい。

宇都宮市立晃宝小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.3	68.4	67.3
	B 図形	47.8	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	67.8	71.2	70.9
	D データの活用	67.9	68.3	65.5
観点	知識・技能	64.3	68.4	67.2
	思考・判断・表現	58.6	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ○()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を、場面と関連付けて読み取ることができるかどうかの問題は、全国の正答率を上回った。 ●2位数÷1位数の筆算について各段階の商の意味を考える問題に、全国とほぼ変わらないものの正答率は低く、課題があった。	・筆算の仕方については、図式化した計算の仕方と結び付けて指導し、商の意味をきちんと理解できるようにしていきたい。 ・今後も、様々な計算方法について、既習事項を用いて求め方と答えを式や言葉で記述する活動を、より多く取り入れていくような授業を展開していく。□
B 図形	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断する問題は、記述式であるため正答率は高くはないが、全国を10ポイント以上上回った。 ●正三角形の意味や性質について理解しているかどうかの問題に、課題があった。	・二等辺三角形や正三角形の作図の際に、作図にはコンパスや分度器が重要な道具であることを押さえ、図形の性質が理解できるようにする。 ・今後も、面積の公式については、具体物や言葉、数、式、図などを用いてその求め方を考え、説明する活動を重要視する。その上で、底辺と高さとの関係がしっかり理解できるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかの問題は、90%と高い正答率で、全国を上回った。 ●百分率で表された割合について理解しているかどうかの問題は、全国の平均正答率を下回り、課題があった。	・割合を求める問題については、基準量と比較量を明確に捉えることができるよう、数直線の使い方に慣れさせ、その定着を図る。 ・場面が複雑になった場合には、数量関係が捉えやすくなるような文章を例示し、問題文を自分が理解しやすい表現に読みかえて考えられるようにする。
D データの活用	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ○二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかの問題は、全国の正答率を6.7ポイント上回った。 ●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを記述できるかどうかの問題は、全国の正答率を上回ったものの、高くはなく課題があった。	・二次元表をもとに、目的に応じた複数の棒グラフを組み合わせたグラフを扱い、その特徴について話し合うことで、理解を深めていく。また、グラフから分かることの文章表現の仕方を例示し、数字を組みかえるなどの作業を通して、慣れさせるようにする。 ・学習素材を児童の現実場面から見つけ、実際にデータを集めグラフ化するなどして、統計的な処理の目的やよさについて実感的な理解を深めていく。

宇都宮市立晃宝小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食をとっている、就寝、起床の時間」の質問にも肯定的回答が多く、各家庭での生活習慣がしっかりしていることが予想されているが今後も維持できるよう家庭に呼び掛けていきたい。

○「自分には、よいところがあると思いますか」の設問に肯定的回答が97.7%であり、全国や県の数値をかなり上回っている。「先生はあなたの良いところを認めてくれると思いますか」の設問に肯定的回答が96.5%であり、児童の自尊感情が高い要因にもなっていると思われる。今後も維持できるよう声を掛けていきたい。

○「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問に肯定的回答が84.9%であり、全国や県の数値を上回っている。これは、教育相談等で十分に時間をとって一人一人の児童の話を聞いてきたため、児童に教師に相談できるという安心感を与えられた結果であることが予想される。

○「友達関係に満足していますか」の設問に肯定的回答が100%であり、全国や県の数値をかなり上回っている。いじめに対する指導を道徳や学級活動の時間を中心に指導してきた結果であると考えられる。

○授業や家庭学習でICT機器を使う機会が全国や県の数値をかなり上回っている。思考を促すツールとしてさらに研究を進めていきたい。

●「家で自分で計画を立て勉強していますか」の設問では、「当てはまる」の回答では全国、県を下回っている。これは、家庭学習が宿題しか行わない児童が多いためである。今後は、自主学習の指導に力を入れる必要がある。

●家庭学習の時間が平日、休日ともに全国、県に比べかなり少ない。自主学習の指導と合わせ、時間の確保が必要である。

●読書の時間や新聞を読む機会が全国、県に比べて少ない。ICT機器を使う児童が多くなり、読書の時間が減っている傾向にある。今後は、読書の大切さについても指導していきたい。

●「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の設問では、肯定的回答が全国、県に比べ下回っていた。そこで、ICT機器を積極的に授業や家庭学習で使用している頻度が高く、児童自身も扱いに慣れているため、充実した話し合い活動に役立てたい。

宇都宮市立晃宝小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
分かる授業づくり	宇都宮モデルを意識し、めあての提示や振り返りを充実させる。また、ICT機器を効果的に活用し、児童の思考を高められるような授業展開を進めていく。	「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の設問では、肯定的回答が全国、県に比べ下回っていた。そこで、ICT機器を積極的に授業や家庭学習で使用している頻度が高く、児童自身も扱いに慣れているため、充実した話し合い活動に役立てたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○基礎・基本の定着	○基礎・基本の定着とを目標とした学習指導の工夫と家庭学習の習慣化	○学年で漢字・計算ドリル、AIDドリル等を授業や朝の学習、家庭学習で活用していく。 ○少人数指導やT・Tによる指導等の個に応じた支援を充実させる。